

ハウスネギの周年生産体系

福島県農業試験場いわき支場
平成16～17年度農業試験場試験成績概要
分類コード 03-37-18000000

部門名 野菜－ネギ－作型・栽培型
担当者 常盤秀夫・石郷岡典子

I 新技術の解説

1 要旨

ハウス軟白ネギは、太さがそろい、白根が長いことから、一般的な消費の他、業務・加工用需要に向くネギとして有望であるが、これら需要に対応するためには周年供給が必要である。

そこで、ハウスネギの作期別収穫所要日数、生産性など周年生産体系を検討した。その結果、周年生産が可能であり、作型の組合せにより年間2回のハウス内作付けが可能であることがわかった。1作当たりの収量は、600～930kg/a程度であった。

- (1) 播種期別の収穫時期は、10月は種が6月収穫、12月播種が8月収穫、2月播種が9月収穫、4月は種が11月収穫、6月播種が12月収穫、8月播種が4月収穫となった(図1)。
- (2) 収量は、ハウス内で盛夏期を経過する9～12月の収穫期は600～700kg/a程度と少なく、それ以外の時期では930kg/a程度の収量が得られた(図2)。
- (3) 年間2回のハウス内作付けや、他品目との組合せが可能である(図3)。
- (4) 年1作(6月収穫のみ)と年2作(6月及び12月収穫)体系で比較すると、年2作体系は、施設の有効利用により農業所得が高まる(図4)。

2 期待される効果

ハウスネギは、作期をずらしながら周年生産することができる。また、年間2回の作付けや他品目との組合せができ、施設の有効利用が可能である。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) 地域の温度条件等によって栽培期間に若干の違いがあると思われる。
- (2) ハウスネギの栽培法は平成15年度「普及に移しうる成果：フラワーネット支持と有孔フィルムによるハウスネギの軟白法」を参照のこと。
- (3) 8～12月播種では晩抽性品種の使用が必要である。

II 具体的データ等

図1 ハウスネギ周年栽培各区の栽培経過(2003年10月播種～2004年8月播種)

播種	定植	軟白	収穫	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
10/16	12/18	5/11	6/22												
12/15	2/12	6/24	8/2												
2/17	4/9	8/18	9/29												
4/13	6/1	9/30	11/1												
6/11	7/13	11/5	12/13												
8/10	9/14	2/28	4/13												

□：播種 △：定植 ◇：軟白 □：収穫 本図がハウス内在圃期間

使用品種 2～4月播種：東京夏草2号、8～12月播種：夢野

ハウスネギの周年生産が可能

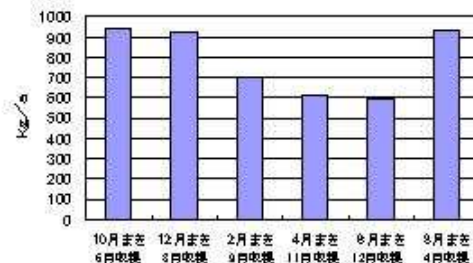


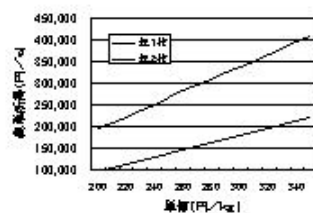
図2 ハウスネギ周年栽培における播種期別収量

1作当たり 800～950kg/aの収穫が可能

図3 ハウスネギによるハウス利用例

播種	定植	軟白	収穫	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
10/16	12/18	5/11	6/22												
6/11	7/13	11/5	12/13												
2/17	4/9	8/18	9/29												
8/10	9/14	2/28	4/13												
水稲育苗															
4/13	6/1	9/30	11/1												

年間2回のハウス内作付け、他品目との組合せが可能



年2回作付けすることによって
農業所得が高まる。

図4 ハウスネギ栽培と他品目との組合せ
※1作1年1作、2作1年1作、3作1年1作で試算した。

Ⅲ その他

1 執筆者

常盤秀夫、石郷岡典子

2 主な参考文献・資料

なし